

農商工労働常任委員会 議事次第

令和 8 年 8 月 19 日（水）

午 後 1 時 3 0 分 ～

於：第 7 委員会室

1 開 会

2 所管事項の調査

「オープンイノベーションによる水産業の持続的発展について」

参考人：合同会社シーベジタブル

共同代表 友廣 裕一 氏

生産管理部 マネージャー 芝山 岳 氏

3 そ の 他

4 閉 会

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿

【企画理事】	
企画理事兼商工労働観光部長	岡 本 孝 樹

【商工労働観光部】	
商工労働観光部企画調整理事 (副部長兼務(労働担当))	河 島 幸 一
商工労働観光部観光政策監 (副部長兼務)	野 口 礼 子
商工労働観光部副部長 (総括担当)	山 本 太 郎
商工労働観光部副部長 (産業創造担当)	安 達 雅 浩
商工労働観光部理事 (情報基盤担当)	高 橋 義 典
労働政策室長	草 分 隆 司
観光室長	西 田 剛
産業労働総務課長	安 藤 成 司
産業労働総務課参事	藤 山 大 輔
中小企業総合支援課長	田 村 弘 之
産業振興課長	森 本 耕 次
染織・工芸課長	中 埜 博 之
産業立地課長	疋 田 英 登
経済交流課長	山 本 隆 裕
文化学術研究都市推進課長	芝 田 雅 貴
雇用推進課長	安 村 真
人材育成課長	田 中 一 成

【農林水産部】	
農林水産部長	荻 安 彦
農林水産部副部長	加 茂 雅 紀
農林水産部技監	塚 脇 健
農林水産部理事 (農政課長事務取扱)	牧 隆 志
農林水産部理事 (農村振興課長事務取扱)	小 塩 佳 市
農林水産部理事 (経営支援・担い手育成課長事務取扱)	川原崎 尚 志
農政課参事	福 阪 圭 輔
農政課参事	一 星 暁 美
農村振興課参事	嶋 渡 英 樹
農村振興課参事	藤 井 伊
経営支援・担い手育成課参事	片 岡 未裕希
流通・ブランド戦略課長	山 川 彰 宏
流通・ブランド戦略課参事	中 澤 尚
農産課長	藤 田 信 也
農産課参事	松 田 智 宏
畜産課長	黒 田 洋二郎
水産課長	八 谷 純 一
林業振興課長	中 井 哲 弘
林業振興課参事	和 田 由美子
森の保全推進課長	中 村 大 地

(計 39 名)

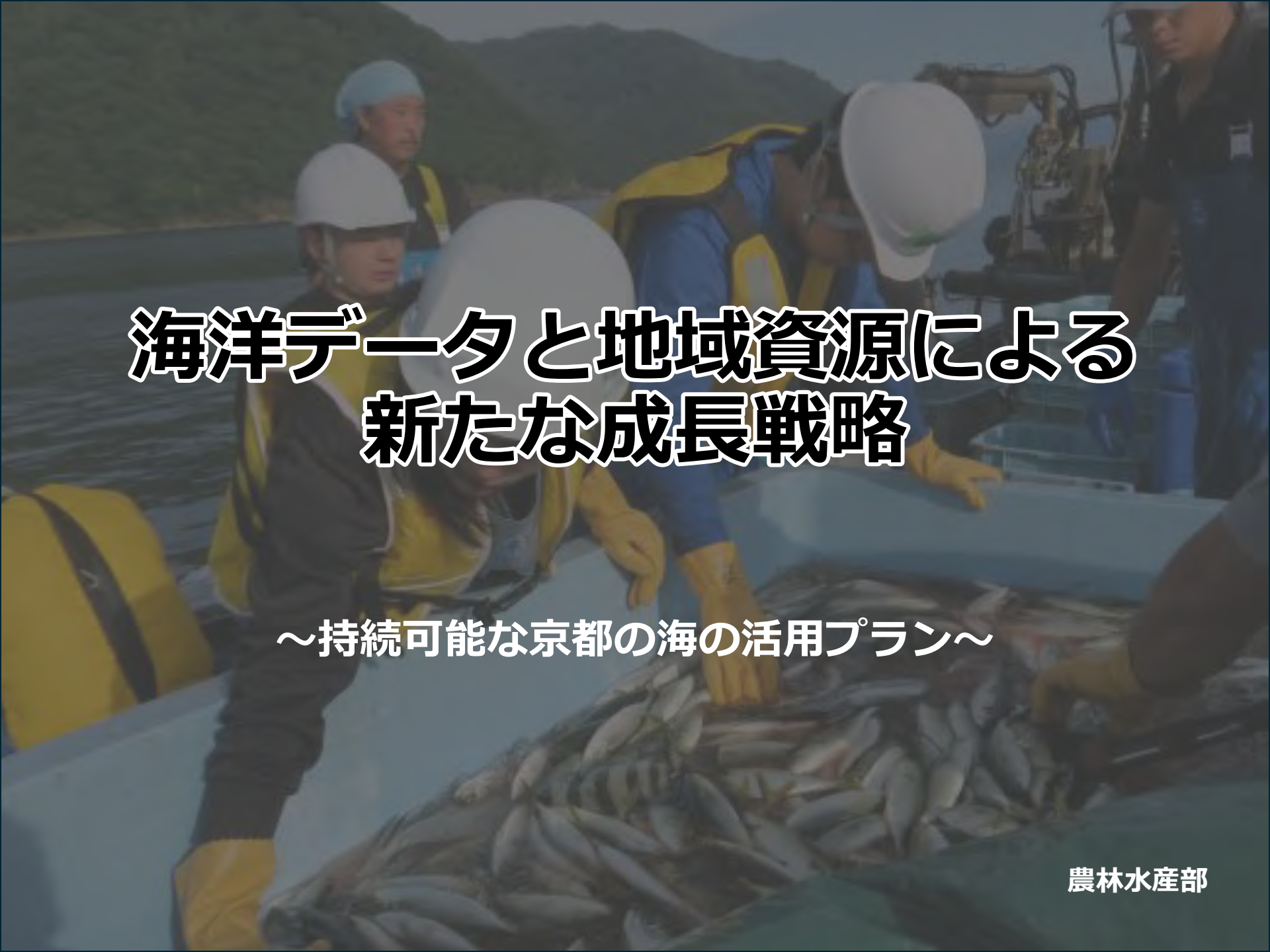
【商工労働観光部・建設交通部】	
※ 商工労働観光部・建設交通部港湾局長	柴 田 裕 基

※ 新任理事者

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿
(8月19日)

【農林水産部】	
農林水産部副部長	加 茂 雅 紀
農林水産部理事 (農政課長事務取扱)	牧 隆 志
水産課長	八 谷 純 一

(計 3 名)

The background image shows several fishermen on a boat, wearing white hard hats and yellow safety vests. They are handling a large pile of fish, likely sardines, on the deck. The scene is set on the water with hills in the background.

海洋データと地域資源による 新たな成長戦略

～持続可能な京都の海の活用プラン～

～持続可能な京都の海の活用プランの策定～

◎背景

- ・ 京都府海域の漁獲量減少
- ・ 海水温上昇など海洋環境の変化
- ・ 漁業者の高齢化と担い手不足
- ・ 漁村の人口減少

◎目指す将来像

- ・ 持続可能な水産資源の利用
- ・ スマート水産業による生産性向上
- ・ 海洋データの活用による技術革新
- ・ 産業・観光・教育などの多様な分野との連携による地域活性化



3つの基本方針を定めて目指す将来像を実現する取組を設定
5か年の計画（2026年度～2030年度）

基本方針①

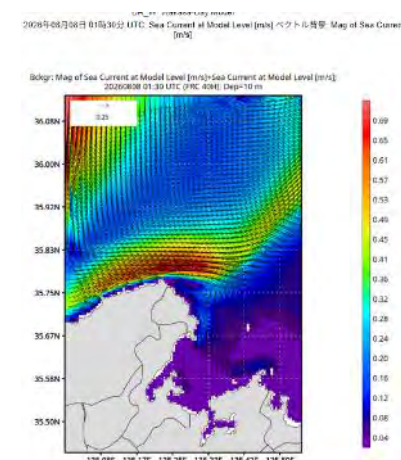
◎ 海洋環境の変化に対応した資源保護と海洋環境保全

▶ 取組の方向性

- ・ 海水温の上昇など環境変化に対応しながら、水産資源を持続的に利用できる技術の開発
- ・ 漁業者が将来にわたって安定した収入を確保できる資源管理を推進
- ・ 藻場の再生やブルーシーフードの取組を通じて、豊かな海を次世代へ継承

▶ 主な取組

- ・ スマート機器や海洋データを活用した操業支援技術の導入
- ・ A I や I C T を活用した漁場予測や適切な資源管理の実施
- ・ 藻場保全活動や藻場造成による海洋環境の改善
- ・ ブルーシーフードの普及による持続可能な水産物の利用促進



流況情報の提供

基本方針②

◎ 生産性向上・高付加価値化による水産業の成長産業化

▶ 取組の方向性

- ・ 海洋データやスマート技術を活用し、効率的で収益性の高い水産業を実現
- ・ 研究開発機能を強化し、新技術の開発と現場への導入を推進
- ・ 京都ならではのブランド力を高め、水産物の価値を向上
- ・ 次世代の水産業を担う人材を育成し、産業の持続的な発展を支える



▶ 主な取組

- ・ 高水温に強いトリガイの開発など、養殖業の安定生産に向けた技術開発
- ・ アサリなど新たな二枚貝養殖の導入による生産品目の多様化
- ・ 海洋環境の変化に対応するため、陸上養殖などで漁業を多様化
- ・ 舞鶴魚港の機能強化と市場の高度衛生化による流通力向上
- ・ クロマグロ、寒ブリ、ズワイガニなどの認知度向上によるブランド化
- ・ 海の民学舎などを活用した経営力・技術力を備えた人材育成



◎ 地域資源を活用した産業の創出による漁村の活性化

▶ 取組の方向性

- ・ 漁村や漁港の魅力を活かした海業を展開し、地域の賑わいを創出
- ・ 漁業者だけでなく、多様な人材を確保し、漁村文化を継承
- ・ 京都の漁村文化や魚食文化を活かした地域の魅力発信と京都の漁業ファンづくり

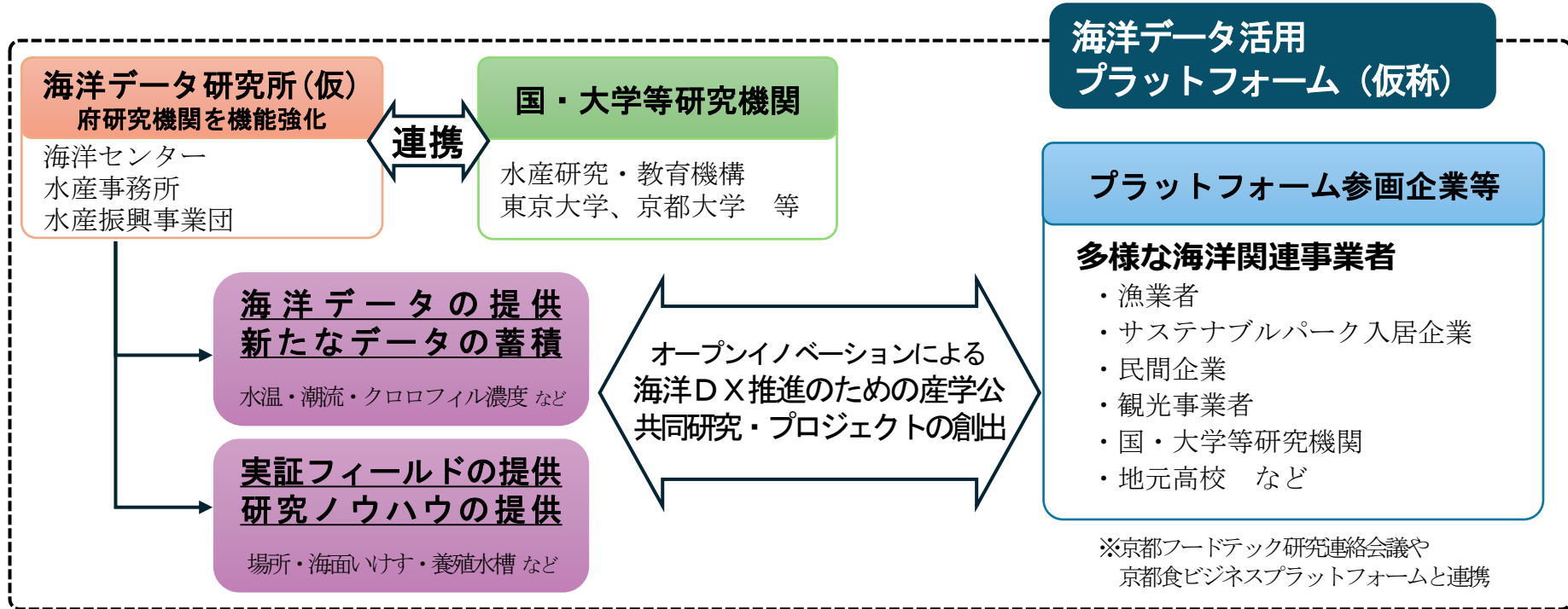
▶ 主な取組

- ・ 漁業体験やブルーツーリズムなど、海業コンテンツの充実
- ・ 移住・定住促進による漁村コミュニティの維持・活性化
- ・ 女性や若者など多様な人材の参画促進
- ・ 海業や漁業体験を通じた交流人口の拡大
- ・ 海の京都DMOとの連携やSNSによる情報発信



北部地域振興の拠点となる海洋データ活用プラットフォーム（仮称）の構築

海洋データやデジタル技術の活用による技術革新（海洋DX）を進める研究開発拠点を府北部地域に形成し、漁業、養殖業等の持続性を高めるとともに、新たな海洋関連産業の創出による地域振興を図る。



研究
開発
成果
(想
定)

産 業

- ・ 漁獲量予測、資源管理、省エネ操業、高付加価値など漁業の持続化技術の開発
- ・ スマート技術の開発と実装

文化
・ 観光

- ・ 海域の自然条件・環境特性・時期に合わせたブルーツーリズムの開発と実施
- ・ 海域データを活用したクルージングの安全性向上

環境

- ・ 藻類の生育条件・炭素固定能力などブルーカーボンに適した海域の設定・実施
- ・ 海洋プラスチック回収に適した海域の調査

新たな
海洋関連産業の創出
による地域の振興





海を守り、海を活かし、

海から新たな価値を生み出す京都を目指します

